

令和3年度第2回在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議報告書

1. 開催日時 令和3年11月4日(木) 午後2時から4時まで
2. 開催場所 市役所東庁舎1階 会議室101
3. 出席者 森谷委員、布施委員、近藤委員、鈴木委員、平野委員、小倉委員  
久米委員、福岡委員、鶴澤委員、岩崎委員、中野委員  
事務局 高齢者福祉課 竹内課長、加藤、山本  
白井駅前地域包括支援センター 林、西白井駅前地域包括支援センター 大澤
4. 傍聴者 4名
5. 次第  
会長あいさつ  
議題  
(1)認知症初期集中支援チーム上半期活動実績報告  
(2)「本人ミーティング」の取り組み報告  
(3)在宅医療・介護連携推進事業上半期実績報告  
(4)多職種連携情報共有システムの運用状況
6. 議 事 以下の概要のとおり

事務局	○ 第2回白井市在宅医療・介護連携、認知症対策推進協議会会議 会長より、あいさつがなされる。
会長	議題1 認知症初期集中支援チーム上半期活動の実績報告について議題とする。 事務局より説明を求める。
事務局	(事務局より資料1：実績報告について説明) 追加説明：市全体における上半期の認知症に関する相談が実人数117件のうちこの認知症初期集中支援チームで対応したケースが7件となる。(うち、民生委員からの相談も市全体では7件あったが、全て各包括で対応している状況がある。)
会長	コロナ禍で対応に支障はあったか。
事務局	昨年度は、訪問やサービス利用を控えたい等々の訴えは出たが、今年の活動の中では、特に見られていない。
会長	コロナに限らず、今年状況について何か特徴はあるか。
事務局	今年で4年目の活動となるが、これまでに比べ、認知症の初期段階で支援に入れるケースが増えてきており、比較的、状況が悪化する前に環境調整ができています。
委員	支援ケースの世帯状況のうち独居の方が0名であったが、そういった独居の方に対し、認知症初期集中支援チームの支援体制についての周知はどうなっているか。
事務局	独居に限らず、認知症に関する相談先は、まず、各地域包括支援センターと周知している。各地域包括支援センター、医療機関、ケアマネジャーの3か所から、初期集中支援チームにケースの相談があがってくるという仕組みとなっている。
委員	地域で心配なケースがある場合、地域包括支援センターへ相談するが、本人に対し、その後どのようなアプローチをするのか知りたい。

白井駅前地域包 括支援センター	認知症の相談の場合、家族や本人へのアプローチはとてもデリケートなので、実態調査という名目で、ご本人に関わっていくことがある。
事務局	また、本人や家族を支える周囲の対応が重要となることもあり、地域の方同士で情報を整理して、本人への関わり方を考えていくことも可能。初期集中支援チームにケースを挙げて関わっていくことができる。
会長	議題2「本人ミーティング」の取り組み報告についてを議題とする。事務局より説明を求める。
事務局	(事務局より説明 資料2) それぞれの立場から「本人ミーティング」への感想と今後の展開(活用)方法についてご意見を伺いたい。
会長	募集方法と定員について。
事務局	当事者の参加13名のうち、広報を見ての申し込みがあった者が3名、他10名が各包括の相談からつなげた方。皆が安心して話ができるよう定員は6名と少人数での開催を想定していた。
委員	本音で話せ、認知症の不安を共有できることで安心できたり、家族の情報共有の場となる。また、認知症施策について本人のニーズを聞いて、施策とのマッチングを行って行けると良い。本人の気持ちをいかに引き出すかの難しさもあると思う。フリートークでは難しい。継続性を考えると、テーマを決めて行うのも良い。
委員	今後高齢化社会の中で、初めて認知症になる方も増えてくると思うので、こういった場の必要性は出てくると思う。また、継続性を考えて運営の工夫や、より多くの人に周知していく必要もある。
委員	同じような境遇の方同士が話すことで、認知症に対する理解を深める機会になる。このミーティングで出た本人や家族の意見を吸い上げて施策に反映させていく場となるのか。
事務局	本人・家族の意見を施策や地域に還元できるようにしていきたいと考えている。
委員	なかなか家族や本人が認識していない、受け入れができていないことが多く、このような場に繋がらないケースも多くあるので、いかにこのような場に繋がっていくかが大事。関わりのある各専門職からの周知が有効と思われる。
委員	認知症になっても、進ませないことが大事。以前、認知症の人が認知症の人の相談を受ける場を紹介しているテレビの放送があった。当事者同士の方が、本人・家族の気持ちに寄り添えることも多いにあると思うので、このような場は今後とても大事になってくると思う。
事務局	今まで、家族会のように家族同士をつなぐことはあったが、本人同士をつなぐことはなかった。今後そのようなマッチングがあっても良いと感じている。
委員	本人の不安・家族の認知症状への対応を考えると、本人・家族が、認知症と気付けることが大事。認知症のチェックリスト等を活用して、認知症かもしれないといち早く気付けると良い。
委員	認知症かもしれないと不安に思う時期の気持ちを当事者同士が分かち合えることができることは、専門職には担えない部分なので、大事だと思う。

事務局	できれば、地域の中で必要性を感じている人から、このような場を展開していけると良いと考えている。
委員	介護認定を受けている方の参加も可能であれば、その方に関わっている専門職からの周知が可能。事務所のある富士地区は高齢者が多い地区。より身近な場所で開催してもらえると良い。
事務局	認知症に対する地域の理解にも繋がるため、各地域での開催を検討していきたい。
委員	徘徊等で、警察が市民と関わる中で、家族が認知症としては認めていない、気づいていないパターンもあるが、こちらが認知症に気づいたときには、地域包括支援センターを相談先として紹介している。
事務局	関連して、警察から市への徘徊高齢者の情報提供について、今年度減っている状況があるが、どのような状況か。
委員	大きく減っているとは言えないが、情報提供について、原則、家族の同意が得られた上での仕組みであり、同意が得られていない可能性も考えられるため、確認してみる。
委員	本人ミーティングの様子をDVDで視聴した上で、情報共有できている流れはとても良い。救急現場では、老老介護で、認知症を認知していないケースに出くわすことも多い。その都度、地域包括支援センターへ情報提供しているが、今後も継続して共有していきたい。
事務局	初期の段階で、このような本人ミーティングに参加できることのメリットを感じた。今後は、各地域での本人ミーティング開催を通して、本人同士をつなげたり、認知症を理解するきっかけづくりを行う必要がある。
会 長	物忘れの症状は知っているが、情動の変化や意欲の低下が認知症状であるとはあまり知られていないことが多い。認知症の先輩が後輩に対して「認知症ってこういうものなんだ」ということが伝えていくことができると良いと感じた。
会 長	議題3 在宅医療・介護連携推進事業上半期実績報告について議題とする。事務局より説明を求める。 (事務局より説明)
	① ワーキングの実績報告について (意見なし)
	② 多職種連携研修
会 長 事務局	感染症対策研修に192名の参加があったのは素晴らしい。 コロナに関係なく感染対策の基本となるので、学べる機会となったのはよいのではないかと。
委員	病院でも年2～3回感染対策研修を行っている。時間が経つと忘れてしまうこともあるので継続性が考えられるとよい。
	③ 救急医療情報キット
委員	非常に役に立っている。シートを作成してから時間が経っているのでどのように内容を更新してくのか、またその周知は課題。
	④ 市民に向けた普及啓発

会 長	(意見なし) 議題4 多職種連携情報共有システムの運用状況について議題とする。 (事務局より説明)
会 長	アカウント数も順調に伸びている。市だけでなく市外の医療機関の利用も考えている。 (事務局より追加説明)
事務局	市全体的に訪問診療の利用者は増加しているが、市外にある医療機関から来ていただいている傾向が白井市の特徴となっている。また、訪問看護ステーションも同様であり、市内の事業所ではカバーできていない状況がある。そのため、このシステムを運用するにあたって、市外の医療機関にも利用していただくことで、スムーズな情報共有につながると考えている。
会 長	この状況に対する感想や今後の取り組みへの御意見をいただきたい。 船橋市の在宅医療機関の方との情報交換をした機会に、患者さんの奪い合いになっている状況で、サービスの向上等の必要性も感じているとの話を聞いたが、白井市にはみられない状況があると感じている。
委員	訪問看護においても、24時間体制を整えるためには、人員と利用者のバランスが重要となってくる中でマンパワーが足りない。オンコールと言って、緊急時対応の電話を24時間持っていないとてはならないため、負担も大きいのが現状で、なかなか市内で訪問看護が増えない、または24時間体制を整えるのが難しい要因と考えられる。
委員	このシステムを实际使用しているが、関係者間の情報共有がスムーズになるので、今後も活用が広がると良い。
会 長	これで、本日の議題は終了となる。他に意見はあるか。 (意見なし) 以上で、本日の会議を終了する。